

日本イギリス哲学会関東部会 第100回研究例会

日時 2017年12月9日(土) 14:00~17:15

場所 慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟 地下1階第1会議室

プログラム

14:00~15:30

現代認識論概観

神山 和好 (茨城工業高等専門学校)

15:45~17:15

英国現代社会民主主義における平等の概念

古家 弘幸 (徳島文理大学)

関東部会担当 伊藤誠一郎 (seiichiro@mtj.biglobe.ne.jp)

矢嶋直規 (yajima@icu.ac.jp)

(◎を@にお直してください)

日本イギリス哲学会関東部会第 100 回例会（2017 年 12 月 9 日、慶應義塾大学）

【報告要旨】

現代認識論概観

神山 和好（茨城工業高等専門学校）

認識論が存在論、価値論と並ぶ哲学の主要分野の一つであることはよく知られています。他分野の影に隠れがちだった認識論ですが、1990 年代から 2000 年代はじめにかけて「認識論のルネサンス」と呼ばれる復興運動が起き、かなりの量の論文が発表されてきました。この報告では、その概要を紹介させていただきます。

哲学上の問題は決定的に解かれるということがなく、問題はつねに開かれたかたちで残されます。大きな変化がある場合つねになにかしらのきっかけがあります。20 世紀後半以後の認識論にあっては、次が主なきっかけとしてあげられます。1. ゲチアの論文（1963）、2. 1990 年代文脈主義の興隆。

ゲチアの論文はこの分野の基本的論文で、発表以後「ゲチアの反例」の処理をめぐる多くの論文が書かれました。その運動に接続するタイミングであらわれたのが文脈主義です。「知る」の意味は発話文脈により異なるという主張はかなりの反響を呼び、いくつかの異なるバリエーションが提案されるとともに、それらに反対する立場—不変主義—との間で 2000 年代以降活発な論争が交わされてきました。近年活発な「実験哲学」もこの論争から生まれたと言ってよいと思います。

以上は現代の英語圏で展開されている認識論のごく簡単な特徴づけですが、それとは異なる脈絡—ゲーム理論において、1970 年代後半以降精力的に展開されてきたのが「共有知識」の分析です。形式的な分析であることもあり、哲学の世界ではほとんど注目されてきませんでした。しかし、哲学者が伝統的に扱ってきたものとは異なる、それ自身興味深い知識現象に注目した分析として、私はそれを現代認識論の重要な成果であると考えています。

『イギリス哲学研究』第 40 号において、米澤克夫氏に書評いただいた拙著『懐疑と確実性』（春秋社、2015 年）はここで述べたトピックを扱ったものです。この報告では提示の仕方を少し変えて、現代認識論の主な問題、論点、周辺の話題等についてお話ししたいと思います。

【報告要旨】

英国現代社会民主主義における平等の概念

古家 弘幸 (徳島文理大学)

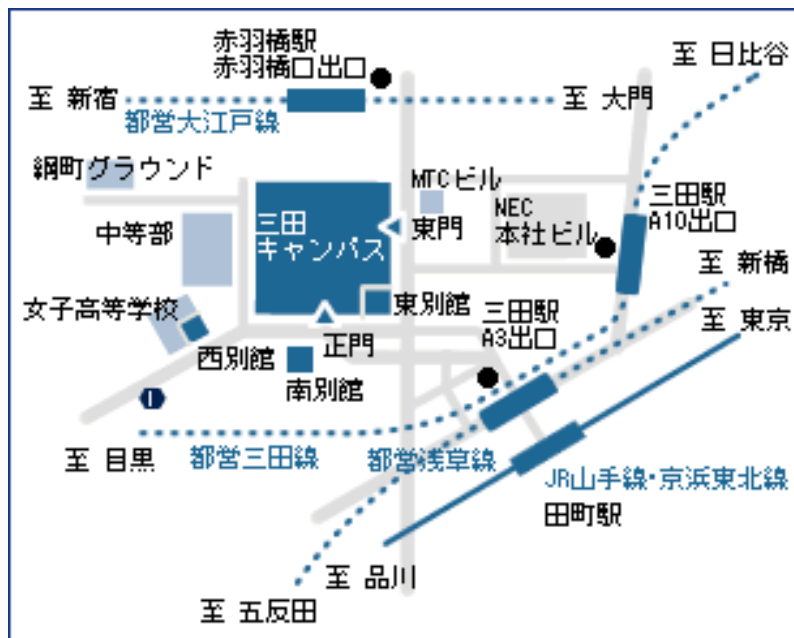
本報告では、トニー・ブレアが率いた英国の労働党政権（1997–2007年）の路線であった「第三の道」を題材に、現代の社会民主主義における平等の概念について再考する。ブレアと、後継のゴードン・ブラウンが率いた時代の労働党は、ニューレイバー（New Labour, 新しい労働党）と呼ばれ、旧来のマルクス主義的なオールドレイバー（Old Labour, 古い労働党）が支配してきた左派の政治を改革し、社会民主主義を再生しようとした。ニューレイバーは、キリスト教社会主義を倫理的基礎とする思想を持ち、マルクス主義よりも、個人の徳義を強調するメソヂスト教会の教義により多くを負っていた草創期の労働党への思想的な先祖返りであった。人間の善性と可能性を信頼するキリスト教社会主義の楽観的な人間観を前提とし、人間には善を行う潜在的能力があり、それを引き出し、発展させ、実現させることを政治の役割と見なした。この意味でニューレイバーは、すべての人に能力と価値を認める平等主義として、キリスト教を理解していた。

ニューレイバーがキリスト教を基に考える「平等」は、マルクス主義者のオールドレイバーが主張してきた物質的満足の平等や「結果の平等」ではなく、コミュニティに属する全ての人々に教育や雇用の機会を与えて社会に取り込んでいくという意味での「尊重や尊厳、処遇の平等」である。この点でニューレイバーは、人権や自由、才能や努力、個人の進取の気性、他者との親交に、公共の功利とは関係なく、それ自体の価値を認めるキリスト教の自然法思想（特に聖トマス・アクィナス）の観点に立ち、社会主義を功利主義から解放しようとした。倫理の優先こそが経済の効率を最大限に上げる近道であるという根本的な主張に、ニューレイバーによる労働党改革における最も重要な哲学的転換があり、「処遇の平等」を正義と見なす原則の上に立って自由貿易と経済の規制緩和を主張したアダム・スミスの影響がみられることも、本報告ではクローズアップする。

参考文献

- 古家弘幸「「第三の道」をめぐる英国政策事情—ブレア労働党政権 10年史（1997–2007年）」、徳島文理大学大学院総合政策学研究科・編『総合政策学入門』（晃洋書房、2017年10月）：第8章。

【会場案内】

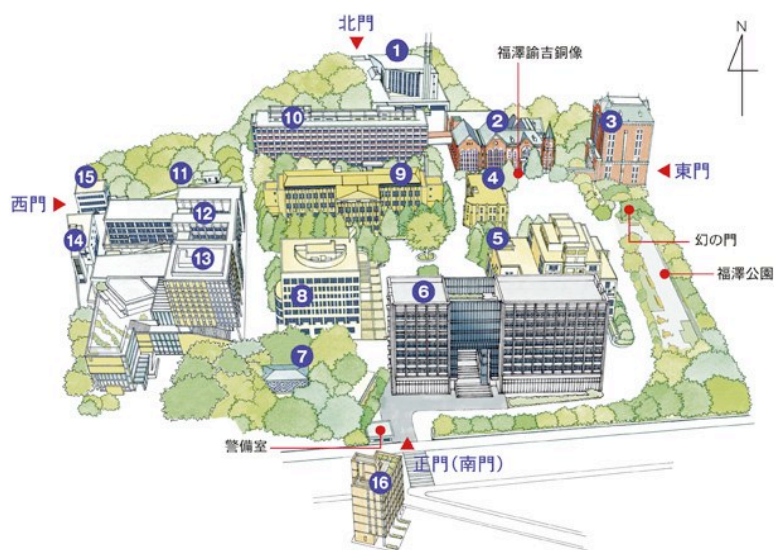


108-8345 東京都港区三田 2-15-45

JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車、徒歩 8 分

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車、徒歩 7 分

都営地下鉄大江戸線 赤羽橋下車、徒歩 8 分



研究室棟は⑩の建物です